

東京赤管



(6)

軍事誌

昭和二十年一月

整理番號第二號

自一月二十一日
至一月二十二日

戰鬪詳報

237116

機關砲隊百五十六隊

9/10/11#
156341

Cincpac-Cincfor
B- 2 7 7 8 P
OKINAWA 24 JULY

進 達 區 分

進	達	先	整理番號	部數
第三十二軍司令官	第一號	第二號	二	
第三師團高射砲隊司令官	第三號		一	

機關砲第百五大隊戰鬪詳報目次

- 一 戰鬪前ニ於ケル彼我形勢ノ概要
 - 二 戰鬪ニ影響ヲ及ボシタル氣象
 - 三 彼我兵力及敵ノ團隊號編成裝備素質戰法
 - 四 戰鬪經過ノ概要
 - 五 連絡施設ノ狀況
 - 六 戰鬪後ニ於ケル彼我形勢
 - 七 戰鬪ノ教訓其ノ他參考事項
- 要圖第一—第四機關砲第百五大隊戰鬪經過要圖
- 附表第一—一月二十一日ニ於ケル機關砲第百五大隊態勢要圖
- 同 第二機關砲第百五大隊死傷表
 - 同 第三機關砲第百五大隊兵器損耗表
 - 同 第四機關砲第百五大隊擧墜機銃元一覽表
 - 同 第五機關砲第百五大隊戰果一覽表

自一月二十一日 至一月二十五日 戰 闘 詳 報 機 關 砲 第 百 五 十 六 隊

一 戰 闘 前 之 於 我 形 勢 之 概 要

我 形 勢 之 概 要

部 隊 編 成

部 隊 八 昭 和 十 九 年 七 月 二 十 日 西 部 軍 管 下 機 關 砲 第 百 五 十 六 隊
ニ 於 テ 編 成 三 番 手 二 十 四 日 完 結 三 十 日 門 司 港 灣 出 發 以 テ
第 三 十 二 軍 之 戰 闘 序 列 ニ 入 ラ シ メ ラ ル

現 地 到 達 後

昭 和 十 九 年 八 月 十 日 那 霸 上 陸 八 月 十 二 日 第 二 十 四 師 團 之 指 揮
下 ニ 入 リ 沖 繩 縣 中 頭 郡 讀 谷 村 北 飛 行 場 防 空 二 命 命 せ ラ ル

任 務

八 月 二 十 日 沖 繩 縣 中 頭 郡 讀 谷 村 北 飛 行 場 防 空 二 命 命 せ ラ ル
西 南 側 並 三 南 側 二 陣 地 占 領 三 同 飛 行 場 防 空 二 任 務

教 育 訓 練

部 隊 編 成 人 員 八 機 關 砲 之 既 教 育 者 編 成 總 人 員 約 三 割 其
他 八 概 三 機 關 砲 之 未 教 育 者 十 分 現 地 到 着 同 時 二 部
隊 全 員 機 關 砲 之 如 熱 情 以 テ 教 育 二 訓 練 二 全 心 全 意 二 努 力

築城
島城

ヲ順到シ一〇〇〇空襲前ハ早ヤ各種戰術ニ支障ナキ種處迄
到達ヤリ其後教練訓練ノ補強強化ニ努メ十月二十日
昭和十九年度初年兵ヲ迎ヘルヤ各種兵條件ヲ排除シ教育
訓練ニ努メタル結果本次戰闘ニ於テハ古年次兵ニ伍シ戰
闘進行ニ高遺憾ナキ域ニ達シテアリ
又隊ハ任地到着ト同時ニ猛訓練茲ニ峻嚴ナリ教育ト并
行シ陣地構築ヲ強行シ先ヅ強固式火炮掩体ヲ初メトシ
各砲測彈藥庫交通壕分敵彈藥庫及指揮所等戰
斗必須ノ築城ヲ十月初旬完成シ引續キ洞窟式患畜收
容所糧秣庫等ヲモ完成シ本戦斗ニ際シテハ戦斗百
般ニ遺憾ナキ状態ニアリタリ尚棲息壕ハ資材入手難
ヲ排除シ目下進捗途上ニアリタリ 偽裝ハ部隊第ニ
偽裝計畫ニ基キ綜合立体的偽裝ニ着手火炮掩体指
揮所以外ハ分散彈藥庫等上部ニ木材土砂ヲ蓄積シ總全

戦斗直前形
勢情報

陣地補強

掩蓋上ニ積土シ之等積土ヲ始メ陣地全般ニ亘リ甘藷
麥萱ギンネム蘇鐵等ヲ移植シ完全偽裝ニ努メ
火炮掩体ハ偽裝網ヲ利用スル等陣地ノ秘匿偽裝ニ
就テハ遺憾ナキヲ期シアリメリ
一月二十日二〇〇八〇五機八重山列島西北途中ノ情報ニ
接シ命ニ依リ警急要勢カニ轉移シ警戒ニシテニ
高雄一七〇度一六〇哩ノ地矣ヲ北東進スル敵機動部隊ア
リト情報ニ接シ愈々南西諸島攻奪ノ算大ナルヲ予期
シ陣地偽裝補強茲ニ猛訓練ヲ實施スレテ夫ニ至嚴
ナル警戒ヲ續行ス

2. 敵ノ形勢カ

敵ルソン島上陸ヲ契期トシ比島戰線ハ愈々決戰
態勢ニ突入シ敵機動部隊ハ三群ニ分レ補助艦ヲ
増強シテ一月十七日ニ至ルモ依然支那海及台湾東方海面

ニ遊戈シ支那大陸空軍社ニ「マリヤナ」群島方面別動
部隊ト策應ス、我が比島作戦増援防害ニ企圖シ
モ、如ク武漢、香港等ヲ頓挫セリ一月二十日ニ至リ
B29五機八重山列島ニ侵入シ機動部隊ハ一七〇高雄一七
〇度一六〇哩地矣、北東進スル等愈々台湾、南西諸島
攻奪ノ情勢必至ナリシガ二十一日ニ至リ敵機ハ依然台湾
後ニ南西諸島ノ攻奪ヲ開始セリ

ニ戦斗ニ影響及ボス氣象

二十二日

朝来雲高度稍低ク曇天ナリシモ九〇〇頃ヨリ漸次晴天ニ向ヒ
一一〇〇頃ハ雲高度高ク強ク陽光ヲ見ル 一二〇〇頃ヨリ再
度曇勝ヲトナリ西北方ニ多曇、雨雲低連ス一四〇〇頃天候快
方ニ向ヒ太陽光線ヲ見ルモ依然雨曇低空ニ在リタリ依テ東南
方ヨリ侵入スル敵機ハ太陽光線ヲ背ニシ西北方ヨリ来襲スル

敵機ハ雲上ヨリ飛行場上空ニ飛来シ約三〇〇米ノ高度ヨリ急
降下障地上空ニ殺到セルヲ目標ノ捕捉照準ニ困難ヲ感
ジタリ尚本日ノ氣象諸元左ノ如シ

氣象諸元

日出七二七 日没一八〇 四 氣壓七六〇 耗 風向北 雲量中
雲高低 風速三米 視程四浬

三 彼我兵力及敵ノ部隊號編成裝備素質戰法
ノ我ガ兵力

主要兵器

將校一六 准士^官下士官五二 兵二九二 名ニシテ別紙第二ノ如シ
九八式高射機關砲一八門 (内十門眼鏡式八門照準環式)

彈藥

一〇〇式曳光自爆榴彈一六二九 發一〇〇式曳光徹甲彈六〇
二八發ナリ

二 敵ノ兵力

部隊號

米第三十分機動部隊

編成

空母三、戦艦二、巡洋艦三、驅逐艦五、水雷機動部隊、艦載機

機種

グラマン戦闘機、カトーラス爆轟機(何レモ艦載機)

機数

未襲回数九回、延機数一七〇機(戦闘機数七十四機)

装備

一三七機関銃二〇機関砲三機、装備シニ〇一五〇枚炸爆彈、塔載シテ

ルモノ、如シ

戦法

攻襲法

一、急降下角度二〇〇ノ空襲ニ比シ一般ニ僅少ニシテ高低角

四十五度附近四〇一五〇度位ナリ

二、急降下後、離脱高度一般ニ高ク五〇〇米一八〇〇米ナリ

三、同一目標ニ對シテ三方向、三方向ヨリ未襲攻襲ス

四、急降下ノ場合ハ一機ツツ同ノ航路ヲ進入スルコト少ク編隊

ノ濫降下スルコト多シ

五、太陽光線、雲、地形ヲ巧妙ニ利用ス

攻襲目標

一、第一ニ地上機滑走路

二、第二ニ機関砲陣地、地上施設

素質

雲、霧、太陽光線等天候氣象地形ノ利用ハ一般ニ優秀ニシテ編隊ノ編合離散急降下及射襲投彈等輕

視スルヲ許サズ然レ共其ノ戦意ハ二〇〇ノ空襲ニ比

シ低下シマルモノト認ム

四戰鬥經過ノ概要

二十一日

一、敵機動部隊ノ行動ニ鑑ミ二十日夜未發言欲ヲ嚴ニ實

施シツ、アリシ処軍高射砲隊長ヨリ左記命令ヲ受領シ

口五一八警急姿勢勢乙ニ轉移ス

記

命令

軍高射砲隊命令

七月三十一日

五五二六

海

一昨夕、機動部隊其後、行動不明
二各隊警急姿勢カ乙ニ移行スヘシ

軍高射砲隊長 吉田 清

大隊長ハ各隊ヲシテ陣地、偽装及各人、偽装ヲ徹底
スル如ク注意セリ

戦斗姿勢カ
ロハロ一戦斗姿勢ヲ令セラレハロ三戦斗姿勢ニ轉移
ヲ完了スハロ七小隊飛行場上空ニ廻旋中トノ

偵察
情報ヲ受領シ至嚴ナル警戒ヲ續行中第一中隊並
視哨ハ南方高度二八〇〇米高低角四十五度附近ヲ西

敵機発見
進中、敵機一機ヲ発見ス然レ共其後敵狀ニ関シ
新報ナク警急姿勢カ乙ニ移行ヲ命セラレハロ三大隊

ハ移行ヲ完了ス
二警急姿勢カ乙ニ警戒中ハロ九、三〇宮古上空ニ
敵機未襲引續キ台北空襲中トノ情報アリ一〇二五内境

内號戦備

情報

戦備下令セラレ南西諸島全地ニ警戒或警急發令セラレ
二〇八警急姿勢カ甲ニ轉移ヲ命セラレ
二〇九與座岳地兵二四〇度一六〇料ヲ敵機大編隊
近接中、情報ニ依リ二一〇戦斗姿勢カヲ命セラレ
主記命令ヲ下達ス

命令

機砲村命令第一〇五號

機關砲第五大隊命令

一月二十一日 二二

- 一與座岳地兵二四〇度一六〇料敵大編隊近接中
高射部隊ハ戦斗姿勢カニ轉移セラレ
- 二各隊ハ戦斗姿勢カニ轉移ヲハシ

大隊長 村上末夫

注意

逐次敵機近接シ二五一那霸上空ニグラマン九機侵入ス
二五四軍高射砲隊長ヨリ左記注意アリタリ

記

各隊ハ落着イテ初彈必墜ヲ期セヨ

敵機ハ射事ヲ爲セバ不規行動ヲトルニ依リ注意スベシ

那霸方向ニ氣ヲトテ東方及北方ノ警戒ヲ怠ルナ

依テ四周ノ警戒ヲ嚴ニ實施中 東方ニ高度三五〇〇—四〇

〇〇米高低角四十五度南進中ノ敵ニ機ヲ發見ス

全將兵敵機ノ射程内未襲ヲ待テタルモ遂ニ敵機ハ北

飛行場ニ来ラズ一ニ二七空襲警戒解除セラレ軍高

射砲隊長ノ命ニ依リ一ニ三ニ警戒姿勢乙ニ移行ス

其ノ後宮古島 台湾島ニ敵機ノ未襲アリタルモ本島ニ

異狀ナク一七〇〇警戒警戒解除セラレ休宿姿勢移行ノ命令

ヲ受領シテ記命令ヲ下達シ一七ニ三ニ休宿姿勢移行ヲ完了ス

但シ警戒警戒姿勢乙ニ準ジ至嚴ナラシムル如ク注意ヲ與フ

記

敵機發見

警戒解除

警戒解除

作 命

機砲村作命第一〇七號

機關砲第百五大隊命令

一月二十一日一七二〇

- 一 警戒警戒解除セラレ高射部隊ハ休宿姿勢カニ移行ス
- 二 各隊ハ休宿姿勢カニ移行スハシ

大隊長 村上 未夫

二十二日

昨日ニ引續キ警戒姿勢乙ニ準ジ警戒ヲ續行シ夜

間ノ未襲ニ備ヘタリ 二十一日二四〇〇敵機動部隊ノ情

報ヲ受領シテ南西諸島空襲必至ナルヲ予期ス

〇五・五一警戒姿勢カニ轉移ヲ命セラレ敵ノ掃蕩襲撃ニ

遺憾ナキヲ期ス 東天ノカニ明初ノル〇六・三五空

襲警戒發令 戦 斗 姿 勢 カ ニ 轉 移 ヲ 命 セ ラ レ 〇 六 ・ 三 六

轉移ヲ完了ス

逐次敵機侵入ノ情報ヲ受領シ將兵眺ヲ列装キテ

警戒解除

戦 斗 姿 勢

其ノ未襲ヲ待ツ

敵機侵入

射撃開始

俄然〇七〇〇敵機ハ那覇上空ニ未襲引續キ北飛行場上空ニ未襲ス〇七四六北飛行場侵入機ニ第一中隊先ヅ必墜ノ第一彈ヲ送り此処ニ本日激烈ナル戦斗ヲ開始ス

其ノ戦斗経過別紙要圖第一、如シ

1. 第一回戦斗

〇七四六東南東雲上ヨリ陣地上空ニ侵入セシ「クラマン」戦斗機七機ハ高度三〇〇米ヨリ約六〇〇米ニ急降下地上機ニ機関砲陣地ニ銃毒ヲ加ヘ西方海上並ニ北方脱去ス
第二中隊ハ其ノ四番機ニ集中彈ヲ指向シ三發ノ確實ナル命中彈ヲ與ヘルヤ敵機ハ高度並ニ速度ヲ低下シツ、西方ニ脱去ス

同時ニ第三中隊ハ亦一番機ニ猛射ヲ浴セ敵機ハ胴

体ノ破壊ヲ確認シタルモ毒ヲ至ニ至ニス〇七四七西南方海上ニ脱去ス

戦斗指導

大隊長ハ特ニ毒ヲ期シテ敵機ニ対シテノミ体當リ式待射ノ強行ヲ要望ス

2. 第二回戦斗

〇八〇三東方三〇〇米ノ高度ヨリ約六〇〇米ニ急降下シ侵入セル「クラマン」戦斗機三機ハ地上機並ニ機関砲陣地ヲ銃毒シ西南海上ニ脱去ス

第二中隊ハ三番機ニ対シ射彈ヲ集中命中彈四發ヲ確實ニ與ヘ第一中隊亦一番機及二番機ニ火ニ二發及至四發ノ命中彈ヲ發射スニ番機ハ後尾翼ニ相當ノ破壊ヲ受ケタルモ並ニ毒ヲ至ラズ低空ニテ胴体ヲ大キク動搖セシメツ、脱去ス

3. 第三回戦斗

注意

ロハ五以降敵機ハ主トシテ西南海上等視界範圍ヲ
旋回シロ九、ロ五北飛行場上空ヲ四機高度約四〇〇米
ニテ西方ヨリ東方ニ飛行シ偵察ヲ實施ス
ロ九、ロ六「グラマン」戦機ニ機北方ヨリ侵入シ高度ニ
ロロ米ヨリ五ロ米ニ急降下シ地上機茲ニ第一及第
二中隊陣地ヲ銃撃シ西方茲ニ東南方ニ脱去ス
西中队共乘襲機夫々一機ナルヲ以テ愈々沈着射要諸
元ヲ慎重ニ調整シ必墜ノ射彈ヲ集中ス
第一中队先ヅ命中彈三發ヲ浴ビセ胴体ニ大破ヲ與ヘ
第二中队亦命中彈ヲ集中ス敵機ハ命中彈ヲ受ケルヤ
約五秒ニシテ機体著ク動揺スルト共ニ爆音・不調ヲ表
タシ南方ニ低空シタレ共再ビ機首ヲ立テ直シ東南方ニ脱
去セリ相當ノ損害ヲ與ヘタルモノト認ム
第三中队ニ対シテ航速・修正ヲ射要時期ニ關シテ注意ヲ爲ス

4. 第四回戦斗

○九、七一〇ニ五間敵機ハ数機編隊ヲ以テ高度四〇〇一五〇〇
米ヲ保持シ本島陸海面上ヲ旋回シ爆音絶ヘズ。此頃ハ軍
高射砲隊長ヨリ屯記注意ヲ受ク將兵ノ志氣愈々軒
昂彈藥節用ニ努ムルト共ニ敵機眼前喜墜ノ決意ヲ
益々鞏固ニス

注意

記

大隊ノ現在迄ノ戦斗ニ於テ各中队共滿ヲ持シ初彈必
墜ニ徹底シ乱射ヲナシハリシハ軍高射砲隊長滿
足スル所ナリ今後益々目重シテ初彈必墜ニ徹底スベシ
依テ軍高射砲隊長ノ注意ヲ各隊ニ傳達スルト共ニ
屯、注意ヲナス

記

各隊ハ軍高射砲隊長ノ注意ヲ確守スルト共ニ尚一層

射撃諸元ヲ正確ニ調整シ其ノ射撃ノ時期及射法ニ
関シテハ日頃ノ注意ヲ履行スベシ

攻撃目標

尚現在迄、各隊ノ射撃ハ概ネ良好ナルモ必墜ヲ期スベシ
一〇一六「グラマン」戰鬥機並ニ「カーチス」急降下爆撃機ヨリ
ナルニ十三機ノ大編隊ハ東北、北及西方ノ三方面ヨリ波状
的ニ分進侵入シ夫々三〇〇米、高度ヨリ四〇〇米ニ急降
下シ猛烈ナル銃爆轟ヲナシ西南、南及東南方ニ脱去ス
其ノ攻撃目標ハ地上施設、滑走路地上機及機關砲陣
地ニシテ其ノ銃爆轟ハ一〇一六ヨリ一〇二〇ニ及ブ此ノ間
各中隊ハ熾烈ナル銃爆下沈着克ク大隊長指揮ニ
従ヒ中小隊長ノ命令ニ依リ最モ良キ目標ニ對シ次々ト
必中彈ヲ浴ビセ決死敢斗ス

(1) 第一中隊ハ陣地上空ニ殺到セシニ番機ニ對シ三發ノ命
中彈ヲ浴ビセルヤ敵機ハ左翼ニ大破ヲ受ケ西南海上ニ

襲撃

脱去ス 續キテ来ル四番機ニ對シ四發ノ命中彈ヲ集中
ス 敵機ハ主翼左基部ヨリ黒煙ヲ發シ都屋西南一〇〇
米ノ海面ニ突入墜落ス

(大隊監視哨戰果確認班並ニ都屋部落民確認)

引キ續キ七番機ニ射彈ヲ集中スルヤ敵機ハ四發ノ命
中彈ヲ受ケ直ニ速度ヲ落シ編隊ヲ離レ低空ニテ西南海
上ニ脱去ス

(1) 第三中隊ハ陣地上空ニ來襲セル第一編隊ノ左翼機ニ
確實ナル命中彈三發 第五編隊ニ番機ニ命中彈ニ祭
ヲ與ヘルヤニ機共編隊ヲ離レ西南方ニ脱去ス

然シテ第一編隊ノ被彈機ハ其ノ動搖並ニ速度ノ減退狀
況ヨリ判断シ大ナル破損ヲ與ヘタルモノト認ム

ハ第三中隊

襲撃

陣地上空ニ襲撃セル一番機ニ對シ全火力ヲ指向シ命中

妻 墜

彈六発ヲ確認シタル瞬間敵機ハ陣地上空通過後百
米ニシテ黒煙ヲ噴キ遂ニ楚邊西南一五〇米ノ海上ニ突入
隊上落ス(大隊本部監視哨戰果確認班ニ衛兵部隊將校確認)
續イテ四番機ニ集中彈ヲ浴ビセルヤ敵機ハ四発ノ命中彈
ヲ受テ楚邊部落上空ヨリ黒煙ヲ発シテ低空ニテ西
南海上ニ脱去セルモ遂ニ楚邊海岸ヨリ三〇〇米ノ海上ニ
墜落スルヲ確認ス(部隊監視哨戰果確認班衛兵部隊將校確認)
敵機妻墜ニ自信ヲ持チタル中隊ハ中隊長指揮ノ下敵
機ニ對シ適時適切ナル射彈ヲ集中セシガ後尾編隊ノ二
番機射撃地點ニ達スルヤ猛烈ナル集中火ヲ浴ビセ其ノ
胴体ニ五発ノ命中彈ヲ與フ
敵機ハ暫クノ後黒煙ヲ長ク引キ楚邊西方ニ〇〇米ノ海
上ニ突入ス(部隊監視哨戰果確認班衛兵部隊將校確認)
此ノ間八番機十四番機十七番機ニ夫々命中彈四発乃至

妻 墜

ニ命ヲ與ヘタルモ妻墜ニ至ラズ八番機十七番機ハ被彈スル
ヤ編隊ヲ離レ速度ヲ落シ西方海面ニ低空ニテ脱去セルモ
其損害大ナルモノト認ム
特ニ八番機ハ其ノ尾翼ニ大破ヲ與ヘシヲ確認ス
本戰鬥ニ於テ四機妻墜セシ各隊ノ敢斗ハ良好ナルモ
軍高射砲隊長ノ日頃ノ注意ノ如ク敵ヲシテ再度本島
東襲ヲ断念セシムルヲ未襲機ノ殲滅ニ決死努力カスヘシ

注 意

第五回戰鬥

一〇、三三 西北方三〇〇米ノ高度ヨリグラマン戰鬥機四機四
米ニ急降下侵入シ地上機銃ニ機關砲陣地ヲ銃撃ス
第一中隊ハ二番機ニ射彈ヲ集中シ命中彈ニ發テ與ヘルヤ
被彈機ハ翼下端ヨリ黒煙ヲ発シ編隊ヲ離レ(他ノ三機ハ
第三中隊陣地ヨリ南方海上ニ脱去ス)蹣跚シテ東方ニ脱
去セントス

妻 墜

第三中隊亦間髪ヲ入レズ該被彈機ニ火ヲ集中シ命
中彈六発ヲ確認スルヤ急速ニ航速ヲ減退再度黒煙
ヲ發シ機首ヲ北方ニ轉シ城山北方ヨリ旋回シテ南ニ西南
方ニ向ヒ都屋上空ニテ亦々黒煙ヲ發ス此ノ頃ヨリ爆音著
シク不調ニシテ高度航速ハ急激ニ低下シ超低空ニテ西
南海上ニ脱去セルモ其ノ墜墜確實ナルモノト認ム(爆音
殆ド停止状態ニアリ滑空ヲ以テ脱去セントセシヲ以テ墜
確實ナリ)

此ノ間第三中隊ハ陣地上空ニ侵入セシ一番機四番機ニ
對シ夫々七発ヲ發シ四発ノ命中彈ヲ與フ
一番機ハ胴体ニ被彈スルヤ機体ノ破損片散乱スルヲ見
第四番機亦尾翼ニ被損ヲ與ヘシヲ確認ス
部隊ハ本戦ニ於テハ四機未襲シタルニ其ノ三機迄墜
墜破シ部隊將兵ノ關心愈々旺盛ニシテ意氣衝天ノ

氣概ヲ呈ス

注意

横行目標ニ對スル射撃ハ不十分ナリ各隊ハ尚一層射撃
諸元ヲ精慮シ必中機ノミ射撃スベシ

第六回戦斗

一。頃ヨリ天候漸次晴天ニ向ヒ雲高度高ク陽光ヲ見
ルニニ四北方ヨリ「アラマン」戦斗機ヲ「カチス」急降下爆
轟機十八機ニ編隊ニ分レ飛行場ニ侵入シ地上施設滑
走路地上機及機関砲陣地ヲ銃爆轟ス
敵機ハ四〇〇米ノ高度ヨリ雲ヲ巧ニ利用シ八〇〇米ニ急降下
シ西方西南方、南方ニ分レ脱去セリ
第二中隊ハ陣地上空ニ殺到セルニ三番機ニ命中彈三發ヲ
與ヘルヤ右翼破損スルヲ確認シ續クテ五番機ニ射彈ヲ
集中シ之亦命中彈三發ヲ確認ス被彈機ハ中隊西側森
林上空ヨリ急速ニ逸去シ都屋上空ニ於テハ愈々臨陣シ

超低空ニテ北方海上ニ脱去ス 喪破相當ナルモノト認ム
第三中隊亦陣地上空ニ米襲セシ五機ニテ傘ノ命中彈ヲ確認セシガ其ノ内五番機ノ損害ハ大ナルモノト認ム

ノ第七回戦斗

注意

一三三。頃ヨリ天候漸次曇リ西北方ニ可ナリノ兩雲低迷ス
二三。軍高射砲隊長ヨリ全高射部隊ニ對シ
ル追射ノ禁止

只射喪時機ノ適切
ハ彈藥ノ節用

ニ付キ注意アリタルニ依リ各中隊ニ其ノ徹底ヲ命ズ
一五〇。南方上空漸次天候恢復シ陽光ヲ見ル
一五〇。太陽ヲ背ニシ南方上空四〇〇。米ノ高度ヨリ突如
「アラマン」七機ニ。米ニ低空シ地上機ヲ機関砲陣地ヲ
銃喪シツ、北方ニ脱去ス

喪

部隊ハ南方ニ陽光ヲ見ル直後ナルヲ以テ大隊長ノ注
意ニ基キ一齊ニ砲門ヲ南方ニ向ケ其ノ米襲ヲ待チイタルヲ
以テ各中隊夫々必中彈ヲ敵機ニ集中ス

喪

一第一中隊ハ七番機ニ射彈ヲ集中シ命中彈六傘ヲ浴ビ
セルマ七翼基部ヨリ火焰ヲ傘シ座喜味上空ニ於テ益々
黒煙ヲ増加シ將ニ墜落セシト見エタルモ火焰ニ包コレタル
補助タンクノミヲ落シテ(之ノ火焰ノ爲座喜味ニ火災ヲ起ス)
宇田方向ニ脱去セシガ遂ニ宇田西方ニ。米ノ海中ニ墜
落ス(宇田部落民警防團員確認)

喪

口。第二中隊ニ三番機ニ對シ命中彈三傘ヲ與ヘ第三中隊亦
同機ニ對シ命中彈ヲ集中ス 被彈機ハ操縦席ヨリ墜
斯クテ發シ引續キ胴体ヨリ黒煙ヲ噴キ飛行場真中ニ
テ墜落スルヲ見ヘタルモ機首ヲ立直シ城山北方ニ墜落ス
(部隊全員確認)

注意

第八回戦斗

此、間、第三中隊ハ一番機ヲ六番機ニ對シ夫々命中彈
 五発ヲ四発ヲ與ヘ胴体ヲ尾翼ニ破損ヲ與ヘシヲ確認ス
 雲間ヨリ急降下スル敵機ニ對シ特ニ注意スベシ

一五四「カ」ト急降下爆轟機ハ機東北方四〇〇米ノ雲
 間ヨリ四〇米ニ急降下侵入シ滑走路地上機及機関砲
 陣地ヲ銃爆轟シ西方ヲ西南方ニ脱去ス

第二中隊ハ陣地上空ニ殺到セシ一番機ニ確實ナル命中
 彈三発ヲ與ヘルヤ同機ハ瞬時火ヲ發シ高度ヲ低下シテ
 都屋方向海上ニ脱去ス

其ノ垂隊ヲ確認セザルモ垂隊上モシクハ甚大ナル損害ヲ與ヘ
 タルモノト認め

亦三番機ニ對シ命中彈ニ發ヲ與ヘ同機ノ高度ヲ速
 度ノ低下ヨリ判断シ轟破大ナルモノト思考セラル

第九回戦斗

一七、三六「グ」ラン戦斗機ニ機五〇米内外ノ超低空ニテ東方ヨ
 リ北飛行場南側上空ヲ飛來シ西南方向ニ脱去ス

ソノ撃墜機ノ諸元別紙ノ如シ

其後敵機ノ來襲ヲ一八三七警戒警報解除警急安
 勢ニ移行ヲ命セラレ一八四一移行ヲ完了ス

命ニ依リ一九三再度戦斗姿勢ニ轉移ス依テ左ノ注意
 ヲナス 敵機ハ那霸上空ニテ北飛行場ニ來襲セズ

又間來襲ノ敵機ハ必墜ノ自信アル場合ノ外其ノ射撃
 ヲ禁止ス

徒ラナル射撃ハ火砲焰ニ依リ逆ニ敵機ノ目標トナルベシ

軍高射砲隊長ノ命ニ依リ三〇四九記命令ヲ下達シ掃
 曉ヨリ約十二時間戦斗回数九回ノ激烈ナル米機襲撃

戦ヲ終ル

左記

機関砲隊百五大隊命令

一月二十三日

一、空襲警報解除セシ高射部隊ハ警急姿勢乙轉シテ
二、各隊ハ警急姿勢乙ニ移行スベシ

大隊長 村上末夫

五、連絡施設状況

通信網状況

軍高射砲隊司令部——大隊本部間電話二回線ヲ構成シ、
本部——各中隊間電話皆無ク、流傳兵ヲ配置シテ連絡
ニ任セシメタリ

確保處置
手段

陣地五〇米以内ハ敵彈ニ依ル損害ヲ防止スルカニ溝設
トシ、其他ハ民家村落等ニ避テ人馬車輛等ニ依ル断線防
止ノカニ地上十米ニ架設ス

戦間故障
防止處置

戦間故障防止ニモ連絡、確保及通信線路偵察補強、目的
ヲ以テ一六三〇通信掛志賀軍曹以下三名出發一六、三七陣地
南々東約一五〇米、地味ニ於テ燈台ニ依ルニ断線防止ヲ
發見直ニ之カ補修懸替ヲ行ヒ軍高射砲司令部ニ列、連絡
後歸隊ス

六、戦闘後ニ於ケル被テ形勢ノ概要

一、我カ形勢ノ概要

六三軍射砲隊長ヨリ球高隊令甲第六七號ヲ受領シ
並記命令ヲ下達シタルヨリ以テ各隊一斉ニ陣地ノ遠近偽
装並補強ヲ強行スルト共ニ火炮彈藥ノ整備ヲ實施ス

記

機關砲第百五大隊命令

二月三十一日

一、高射部隊ハ一部陣地ヲ變換シ偽装遠近ヲ徹底シ明

拮曉以降、戰鬥ニ遺憾ナカラシムル

二、大隊ハ本夜中ニ各陣地ノ遠近偽装ヲ徹底シ明拮曉以降

ノ戰鬥ヲ準備セントス

三、各隊ハ本夜中ニ更ニ陣地ノ偽装遠近ヲ實施シ明拮曉以

降、戰鬥遂行ニ遺憾ナカラシムベシ

大隊長 村上末夫

注意

左記注意ヲ與ヘ至嚴ニ警戒式ヲ續行シ本夜ノ月明並明
拮曉時ノ空襲ニ滿遺憾ナキヲ期ス

記

警急姿勢勢乙ニ移行セラレタルモ本日ノ敵機ノ情况ヨリ察

シ月明ヲ利シ何時末襲スルヤモ知レズ各隊ハ最モ至嚴

ナル警戒ヲ續行スルト共ニ特ニ明拮曉ノ空襲ニ對シハ萬

全ヲ期スベシ

本夜戰鬥ニ於テ御嘉賞ノ御言葉注ニ軍司令官ノ賞詞ヲ

賜レリ

御嘉賞

二十三日戰況上奏ニ際シニ五日、二十日敵機台湾及沖繩方

面來襲ニ當リ現地各部隊が健斗大ニ努メ大ナル戰果

賞詞

軍高射砲各隊

右者軍高射砲隊長陸軍中佐吉田清統一指揮ノ下

二月二十一日及二十二日未三八機動部隊ノ南西諸島空

賞詞

一、高射砲隊隊長、本隊を率ゐて、
並に命令、下達シ、各隊一斉に陣地へ進出、
装束を補強、強行スル、火砲陣地を整備、實施ス

記

機關砲隊百五大隊命令

百五二八三

一、高射砲隊の一部陣地を交換し、偽装進退を徹底し、明

拂曉以降、戦士二遺骸を回収スル

二、大隊八本夜中、各陣地へ、進退偽装を徹底し、明拂曉以降

の戦士を準備セシム

三、各隊の本夜中、二更に陣地を偽装進退を實施し、明拂曉以降

降、戦士遂行ニ遺憾ナカラシムベシ

大隊長 村上 未夫

左記注意、與へ至嚴に警戒式ヲ續行シ本夜、月明並に明
拂曉時ノ空襲ニ満遺憾ナキヲ期ス

記

警戒急変時乙ニ移行セラレタルモ本日ノ敵機ノ情况ヨリ察

シ月明ヲ利シ何處ニ未襲スルヤモ知レズ各隊ハ最モ至嚴

ナル警戒ヲ續行スルト共ニ特ニ明拂曉ノ空襲ニ對シテハ萬

全ヲ期スベシ

本夜戦士於テ御嘉賞ノ御言葉ヲ軍司令官ノ賞詞ヲ

賜レリ

御嘉賞

二十三日戦況上奏ニ際シニ五日、二十日敵機台湾及沖繩方

面來襲ニ當リ現地各部隊が健闘大ニ努力メ大ニ戦果

ヲ收メタル事ニ関シ畏ラモ御嘉賞ノ御言葉ヲ賜レリ

賞詞

軍高射砲各隊

賞詞

右者軍高射砲隊長陸軍中佐吉田清統一指揮ノ下

二月二十一日及二十日未三ノ敵機部隊ノ南西諸島を

襲ニ當リ敵機延七百數十機ヲ邀撃シ勇戦健斗
撃墜破總數實ニ百十三機ノ戦果ヲ收メタリ惟ニ今
次戦果ノ赫々タルハ昨年ノ十月十日以來ノ戦訓ヲ活用
シ克ク長期ニ亘リ不撓不屈一意作戰準備ニ專念シ
戦斗ニ方リテハ隊長ノ的確ナル指揮ノ下部下將兵ノ
沈毅勇戦克ク隊長ノ所謂初彈必中ノ戦斗指標ヲ
具現セシニ因ルモノニシテ去ヌルニ三日參謀總長ノ戦況
上奏ニ際シ畏クモ軍ニ對シ御嘉賞ノ御言葉ヲ賜フ因
ヲナセリ

昭和二十年一月二十七日

右ハ戦局日ニ急迫ヲ告ケ敵機ノ來襲更ニ執拗苛烈ヲ
極ムヘキノ秋彌々軍官民ノ志氣ヲ昂揚シ益々其ノ必勝
ノ信念ヲ鞏固タラシメタルモノニシテ顯功賞讚ニ價ス
依ツテ茲ニ賞詞ヲ與フ

誓文

誓文

第三十二軍司令官陸軍中將^{正四位}牛島 満
二十七日軍司令官ヨリ右ノ賞詞ヲ受ケ將兵一同愈々志
氣旺盛任務ノ完遂ニ努メ御聖旨ニ副ヒ奉ラシムト期ス

本二十七日軍司令官閣下ヨリ別記ノ賞詞ヲ拝受ス誠ニ感
激ニ堪ヘズ
將兵一同愈々來襲米空軍ニ對シ一彈必墜以テ負荷ノ
重任ヲ完遂セシムト期ス
之ガ為特ニ尤記諸項ヲ嚴守實行具現ス
ノ既往ノ戰訓射撃結果ノ利用注ニ注意シ履行具現
ス第一群射ヲ以テ眼前岳墜
ノ向ヒ撃テニ徹シ一群射各門一挙(卅五發以内)
口兵器彈藥ノ整備美檢規正(朝夕將校必ズ立會)以テ
自信ヲ堅持

3. 戰鬥後ノ審査勵行

中隊長ノ號令敵機ノ行動及射撃ノ景況ヲ記錄シ
號令ノ適否兵ノ操作ノ正否ヲ戰鬥後審査シ再ビ
同一轍ヲ踏ミカルト共ニ確固タル戰訓資料獲得
4. 久留ハ基本分隊教育ニ移シ徹底的ニ燒キ直ス
之ガ教官ハ下士官委共ハ不可將杖自ラ指揮シ缺
點ヲ其ノ都度指摘矯正シ頻回復行

昭和二十年一月二十日

軍高射砲隊

敵ノ形勢

三月廿九日三小隊飛行場ニ侵入セシ敵機ヲ最後トシ本
島ニ來襲セズ

台灣軍ノ情報ニ依リハ敵機動部隊ハ伸總南方
ニ。料附近ニアルモノ、如ク本日ニ引續キ南西諸島攻
襲ノ算大ナルモノアルヲ豫察セシム

戰鬥教訓其ノ他參考事項

射撃教訓

① 今以テ空襲ヲ如ク破關砲陣地上空ニ殺到スル敵機ニ對
シテハ其ノ効果ニ彈藥射角上ニ見テ固定照準ヲ待
射ヲ射撃ヲ最良ノ射法ト認ム

但シ確實ニ障地ニ對シ射線ニ沿ヒ降下スル目標ニ非ラ
ザレバ極々僅カ照準線ヲ外レル目標ニテモ固定照準
ニ依リ射撃ハ効果少シ

② 敵機ノ進入方向離脱後ノ飛行方向等ニ依リ異ルモ
急降下後機首ヲ直シ水平飛行ニ移レル瞬間
失速時ヲ狙ヒ待射的ニ射撃ヲ送ルヲ有効トス

③ 敵機角令附近ノ目標ニシテ急降下スル目標ノ降下
角ノ判定ハ困難ナリ

斯ナル狀況ノ目標ヲシテハ脱去方向之ヲ許サバ水平飛
行ニ移レルヲ待テ待射的ニ射撃スルヲ有効トス

(4) 超低空目標ニ対スル射撃ハ一般ニ効力大ナリ
依テ状況許サバ八度以下ニテモ射撃シ得ル如ク考
慮スルヲ可トス

(5) 今次空襲ニ於テ急降下後ノ離脱高度一般ニ高ク
五百—一千米多シ

依テ昇降角ヲ採リ千米以内ニ引キツケ射撃セントスル
テ直距離一五〇米以上等ノ位置ニ於テ機首ヲ立テ直シ
脱去水平飛行ニ移ルニ多ク一時射撃ニ困難ヲ感セ
シコトアリ

故ニ克ク敵機ノ狙ヒアル目標物ト侵入方向高度等ヲ
考慮シ速カニ敵機ノ行動ヲ豫察シテ射撃ヲ實
施スルヲ要ス

(6) 測遠機手ノ測距ハ急襲目標ニ対シテハ一般ニ近測
距セル傾向アリ

且目標ノ發見困難ナリシトキハ適時適確ナル測距
困難ナリシ事多シ

訓 練

指揮官ノ直距離ノ目測ハ取高度ニ演練ノ要アリ

(7) 射撃間ニ於ケル分小中隊長間ノ連絡ハ更ニ緊
密ナル如ク日頃ヨリ訓練スルヲ要ス

爆音其他ニ於ケル眼前ノ事象ニ眩惑サレザル如ク騒
音ヲ作爲セル状況下ニ於ケル訓練ノ要アリ

(8) 基礎教育ノ徹底ハ敵機ノ須報ニ伴ヒテ查メ其ノ成
果ヲ發揮ス

(9) 敵機ノ銃撃彈機関砲陣地掩体内ニ落下スル如キ
激烈ナル戦斗ニ於テハ中小隊長ノ大膽適切ナル指揮ハ
克ク砲手其他ノ志氣ヲ鼓舞シ必墜ノ射撃ヲ選リ
得ルモノナリ

希望意見

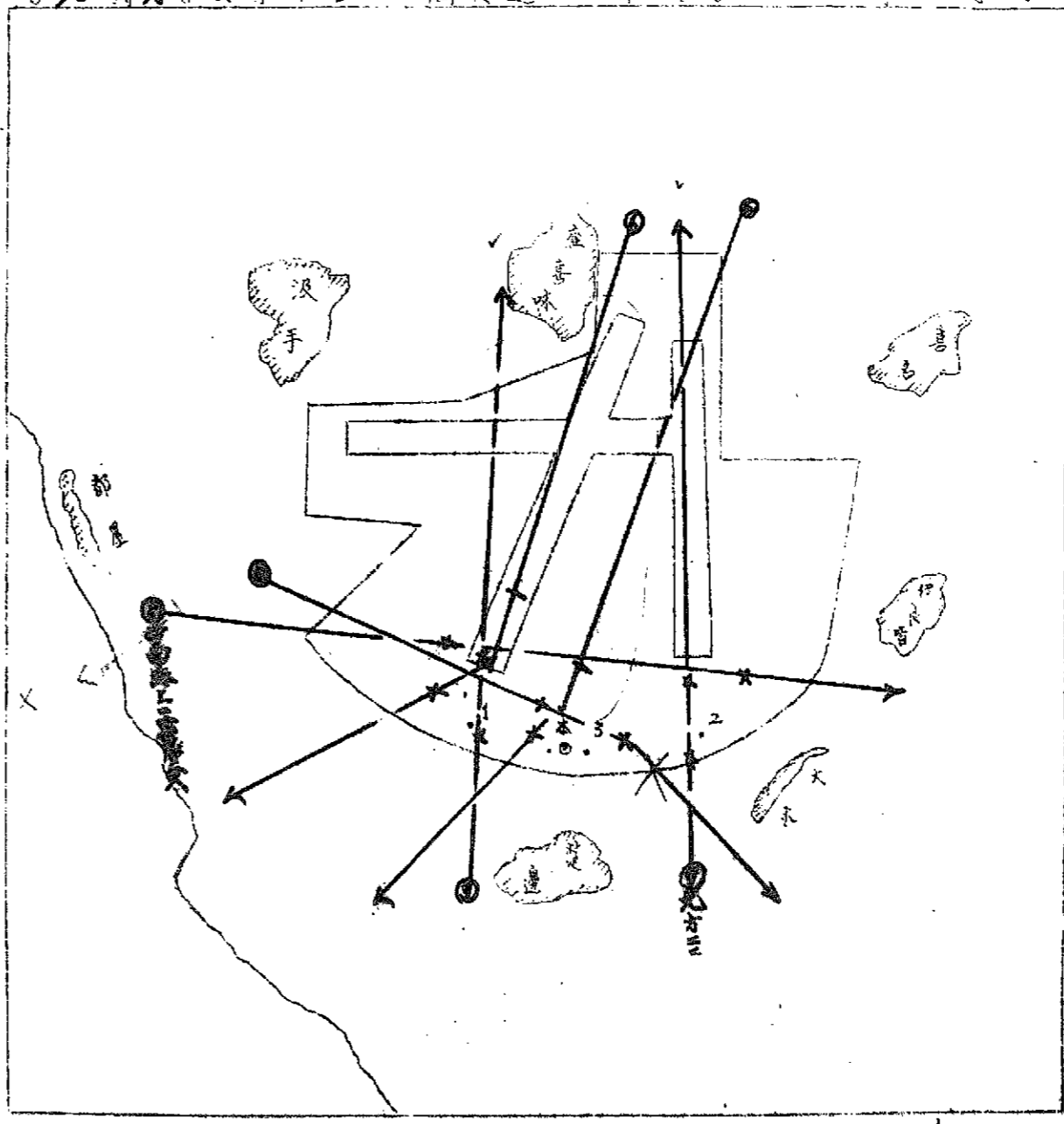
部隊電音機ナキ為情報ノ速達難ク指揮ニ至大

支障ヲ采クセリ少クトモ一口器以上ノ通信器材ヲ
必要トス

機關砲隊五百人戰鬥經過圖

司令官 10月22日 15時10分

要圖第三



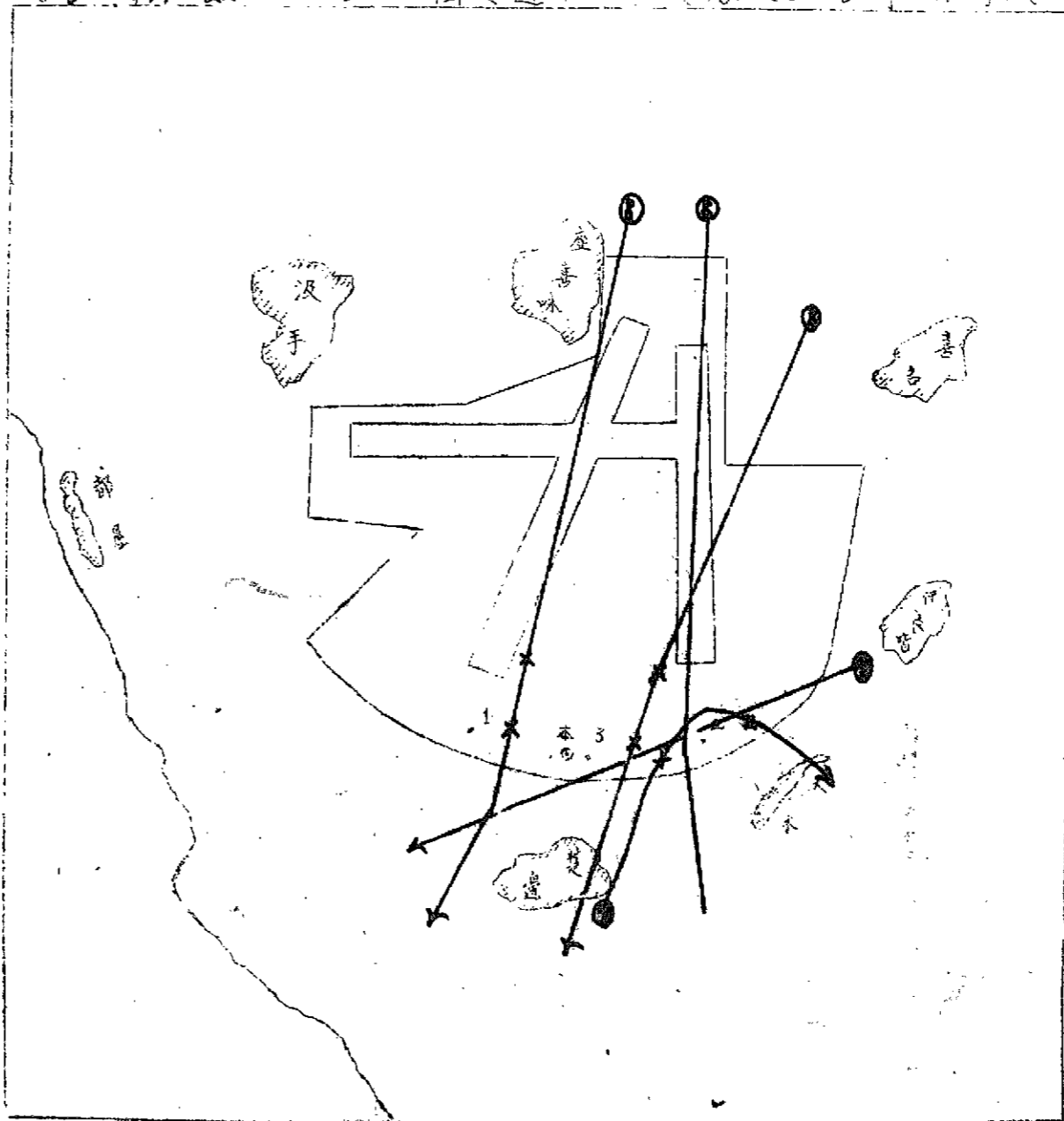
考		備						
		擊破			擊墜			
		擊	破	擊	墜	擊	墜	擊
		數	數	機	機	機	機	機
		種	種	種	種	種	種	種
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
		數	數	數	數	數	數	數
巨	目	4	4	4	4	1	2	
小	標	2	12	4	1	1	4	
分	機	1	1	400	2	2		
未	所							
備	射							
目	擊							
擊	位							
	置							
	示							
	示							

分 41 時 15 22
分 26 時 17 22

圖海過路航隊大五百第同機

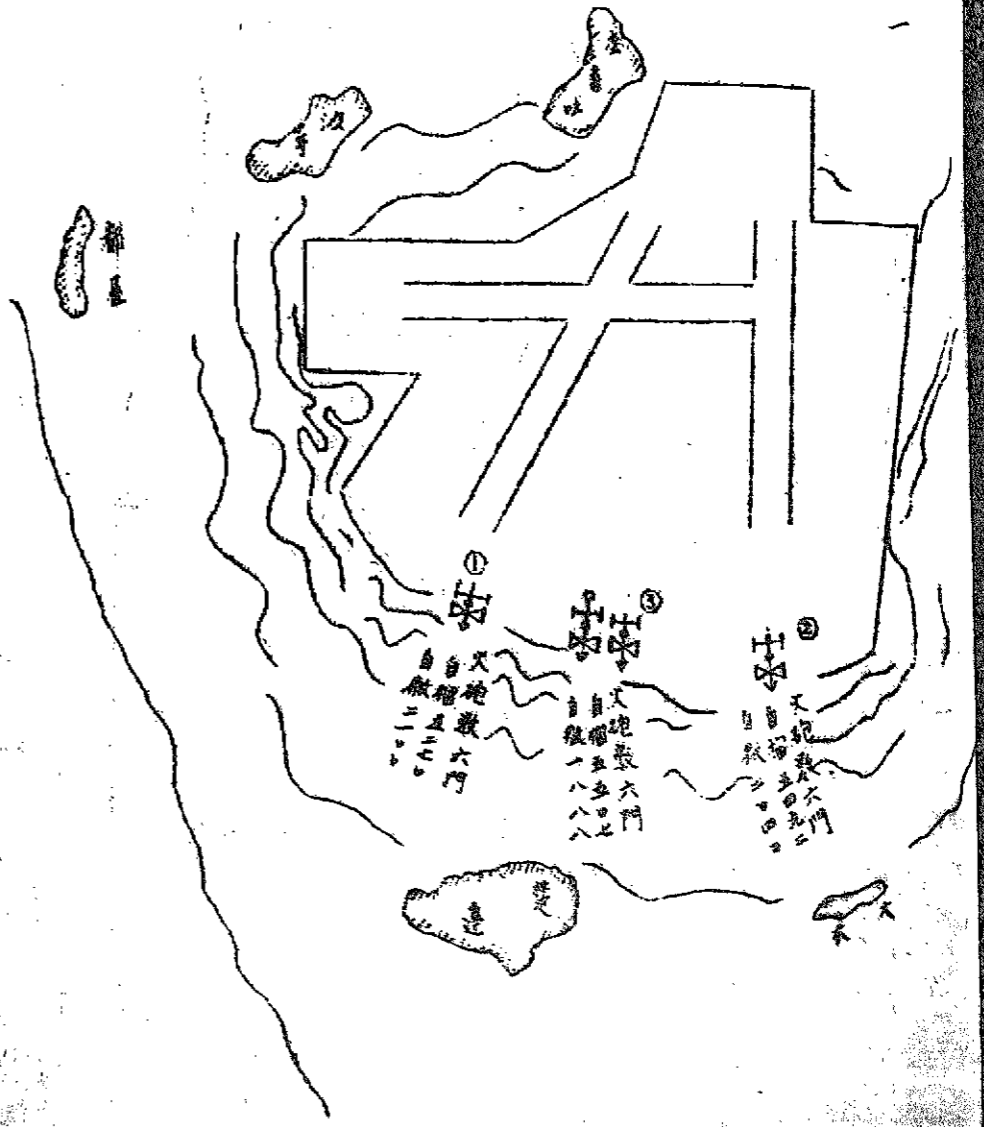
要圖第四

考		備					
		又印八射擊位置示					
		擊破		擊墜		機	
		二機		機			
區	目標	機種	機數	高度	航速	擊墜	擊破
分	見附刊						
8/15/41		多	5	400	85		2
9/18/36		多	2	100	100		



圖要勢態隊大五百第砲關機於日一十二月一

附圖第一



附表第二

隊別	昭和五年 一月三日		機關砲第百五大隊死傷表	
	戰鬥參加人員	死	傷	生死不明
本部	六	一	三	四
第一中隊	三	一	三	八
第二中隊	四	一	三	六
第三中隊	三	一	三	八
合計	十六	五	九	二六

附表第三

隊別	機關砲第百五大隊兵器損耗表	
	消	損失
第一中隊	三〇	九
第二中隊	五〇	二
第三中隊	五〇	一
合計	一三〇	一二

附表第四

擊墜機請元一覽表		第一中隊			第二中隊			第三中隊		
回数	時刻	機種	高度	距離	機種	高度	距離	機種	高度	距離
4	10.16 10.20	カノ	四〇〇	一〇〇	カノ	四〇〇	一〇〇	カノ	四〇〇	一〇〇
5	10.33	カノ	四〇〇	一〇〇	カノ	四〇〇	一〇〇	カノ	四〇〇	一〇〇
7	10.10	カノ	四〇〇	一〇〇	カノ	四〇〇	一〇〇	カノ	四〇〇	一〇〇

備考
人航速ハ一般五〇
ノ下ハ一〇ノ下
速度ヨリ諸元ニ
機大

附表第5

機開砲第百五大隊戰果一覽表

昭和20年1月22

機開時刻	第一中队					第二中队					第三中队				
	機種	機數	航速	距離	發射	機種	機數	航速	距離	發射	機種	機數	航速	距離	發射
1 0246	F6F	7	90 100	300 400	1	F6F	7	90 100	300 400	1	F6F	90 100	300 400	1	
2 0803	F6F	3	"	"	1	F6F	3	"	"	1	F6F	"	"		
3 0906	F6F	2	"	"	1	F6F	2	"	"	1	F6F	"	"		
4 1016	F6F SB2C	23	90-100 85-95	"	1	F6F SB2C	23	90-100 85-95	"	1	F6F SB2C	90 85-95	"	3	
5 1021	F6F	4	90 100	"	1	F6F	4	90 100	"	1	F6F	90 100	"	2	
6 1028	F6F SB2C	18	90-100 85-95	"	2	F6F SB2C	18	90-100 85-95	"	2	F6F SB2C	90-100 85-95	"	1	
7 1010	F6F	7	90 100	"	1	F6F	7	90 100	"	1	F6F	90 100	"	2	
8 1041	SB2C	8	85-95	"	2	SB2C	8	85-95	"	2	SB2C	85-95	"		
9 1038	F6F	2	90 100	"	3	F6F	2	90 100	100	1	F6F	90 100	200	2	
計					6					6				8	